

2015年4月1日



# 2014 年度活動報告書

2014年4月～2015年3月

## 1 相談支援活動

相談支援の拠点として、「あすからの暮らし相談室・宮古」を宮古市保久田に設置し、被災者など生活に困難を抱える方を対象に、面接、電話、訪問等により相談及び支援を実施した。

相談支援の手法としては、生活に困窮している住民に対し、地域資源と連携しながら、個別的、継続的、制度横断的、伴走型、寄り添い型の生活再建支援を行った。

田野畑村及び山田町で出張相談会を定期的で開催した。のべ開催回数 24 回。相談者数 63 人。

2014 年度上半期の活動数は、5,079 件(面接相談 850 件、電話相談 1,064 件、訪問相談 113 件、関係機関との連携 3,052 件)、相談室訪問者、1,117 人、新規相談者数 205 人であった。

岩手県が実施する「平成 26 年度生活困窮者自立促進支援モデル事業実施業務」を奥州商工会議所から再受託。職員を配置し、宮古圏域を対象に同事業を実施した。

## 2 社会的包摂推進活動

### (1) 「つむぎサロン・みやこ」事業

被災者同士の交流と自立支援、相談の掘り起しにつながることを期待し、SAVE IWATE が行う復興ぞうきん事業(支援物資のタオルを被災者が仕立てて SAVE IWATE が買い上げる事業)と連携し、「つむぎサロン・みやこ」を 2012 年 5 月から毎月開催している。今期の利用者数のべ 71 人。サロンが被災者の居場所になっているだけではなく、参加者自身が生活困難を訴えたり、参加者が困窮者をつなげてくれたりする効果が出ている。

### (2) 物資支援事業

2011 年 6 月から SAVE IWATE との連携により、被災者等必要としている方を対象に生活用品などの物資を確保しているほか、2012 年 8 月からは、当室のウェブサイト等において、一般から広く支援物資を求めている。今期、支援の提供を受け入れた件数はのべ 15 人 108 件。支援した件数は 70 件。

物資は相談室内及び専用倉庫に配備し、極度な生活困窮状態にある方へ提供している。なお、専用倉庫は 2013 年 2 月からジャパン・プラットフォームの助成により宮古市内にアパートの一室を借り上げる形で設置している。物資支援をする団体がほとんどなくなっている現

状、物資を必要としている方と支援をしたいという個人や企業をつなげる役割を継続的に担っている。

### (3) 「あすくら友の会」事業

利用者間の交流を促し、孤立を防止するための「あすくら友の会」を2013年2月から毎月実施。今期の参加者数のべ75人。参加者が増加しており、ひきこもり気味であった参加者の居場所になっているほか、エンパワメントを引き出し、生活再建のステップアップにもよい影響を与えているほか、当室業務をボランティアとして手伝っていただくなど、社会参加のきっかけともなっている。

また、あすくら友の会のメンバーが「編み物友の会(あみとも)」を主宰し、編み物技術の取得と交流の輪を広げている。

### (4) 出前講座事業

社会的包摂理念を広く一般に伝え、事業への協力を促す目的及び内容で出前講座を開催。希望に応じ、講師を派遣している。今期の実施回数25回。受講者1,689人。受講者からはおおむね好評を得ており、開催依頼が増加している。

### (5) ボランティア事業

社会的包摂理念を広く普及させていくため、活動を手伝うボランティアを2012年8月から募集し、受け入れている。今期のボランティア活動実績のべ55回119人。就労困難者、社会的孤立者の社会参加、就労体験の場になっている。

### (6) フードバンク事業

緊急的な食糧支援が必要なケースに対応するため、SAVE IWATEと連携し、必要な方への食糧支援を適時実施した。また、県内にフードバンクを設置する事業に実行委員を派遣して参画し、社会参加を促す農園運営、広報啓発セミナー・学習会等の開催を行った。

### (7) 「パソコン教室」事業

支援対象者に対する就労意欲の向上を図るとともに、パソコン技能を高める目的で「パソコン教室」を随時開催している。今期の開催実績10回14人。

### (8) 「あすくら学校」事業

震災後のくらしに明るい兆しが見えない不安が地域を襲っている現状を踏まえ、住民とともに、地域でよりよく生きていくための選択肢を増やすアイデア等を学び考えるとともに、震災後のくらしのモデルロールを構築し、あすからのくらしに展望を持つ一助とするために2014年1月から実施。幸せの学び舎として、「学びともに生きる学級」、「聴き書き実践学級」、「分かち合いビジネス学級」を設置し、住民が参加できる基礎講座(座学と実技)を実施した。今期の実施回数4回70人参加。

### (9) 「寄る辺」事業

利用者及び市民の交流、学び等の場を提供し、包摂意識の向上に努めている。今期の利用実績54回、304人。

### (10) 「あすくらカフェ」事業

生活困窮者が生み出されづらい社会を実現するため、いいまち、いいくらしを創る！をテーマとした「あすくら・宮古カフェ」を2012年12月に初開催。2014年11月には、「宮古らしいもう一つの生き方～ライフスタイル・宮古Version～」として生き方の多様性をテーマに実施。参加者数18人。



### 3 地域ネットワーク活動

個別の相談支援においては、必要な社会資源と適宜連携し、相談支援事業を通じて、地域のネットワークづくりを行っている。また、適時、各社会資源と連携のための協議を行った。各社会資源にはチラシ・ポスターを配布し、活動への協力を依頼した。

2015年4月から市及び県が実施する「生活困窮者自立支援制度」に向けて、地域の関係者に呼びかけ、その準備のための勉強会を盛岡市及び宮古市において開催した。

地域ネットワーク構築のため参画している連絡会議等は以下のとおり。

- ・宮古市生活復興支援センター連絡協議会
- ・宮古地域支援団体連絡会議
- ・宮古地域自殺対策連絡会議
- ・障害者生活支援連絡会議権利擁護部会
- ・もりおか復興支援ネットワーク
- ・宮古地域こころサポート連絡会
- ・地域福祉推進計画委員会
- ・支援調整会議(平成26年度生活困窮者自立促進支援モデル事業実施業務)
- ・(仮称)くらし支援ネット・盛岡
- ・(仮称)くらし支援ネット・宮古
- ・(仮称)くらし支援ネット・岩手

NPO 法人いわて生活者サポートセンターの参与として、「あすからのくらし相談室・釜石」及び「これからのくらし仕事支援室」の運営に参画し、岩手県内における支援ネットワークの構築を行った。

当法人及び地域の団体などが持つノウハウを、地域の支援員や市民に対して移転するとともに、生活困窮者自立支援制度に向けた意識の醸成を図り、地域資源のネットワークに資する目的で学習交流会を4回開催した。のべ参加者数304人。

### 4 その他の活動

報道機関に対して活動に係るプレス・リリースを行っている。また、視察・取材対応を通じて、活動の実情、被災者の状況などを伝えた。

各ドナーとは、助成金の申請、事業の報告のみならず、適宜連携し、情報交換、セミナー等への参加等をした。

職員の資質を高める研修には随時積極的に派遣した。



## ●あすからのくらし相談室・宮古 活動統計

2014年4月～2015年3月

項目	件数	備考
活動数	5,079	
面接相談	850	
電話相談	1,064	
訪問相談	113	
関係機関との連携	3,052	
相談室訪問者	1,117	
新規利用者	205	
支援対象者	63	
ハローワークとの連携	85	
就職決定	16	
社会参加	143	



## ●学習交流会参加者アンケートから抜粋

### ■あすくらに対する感想など

- ・地域が違っていても、抱えている課題は同じだったと感じた。それに加え、被災地ならではの課題も抱え、複雑化していると感じた。
- ・被災地に限らず、最も必要な支援だと思った。
- ・改めて相談機関だけではなく、地域全体で困窮者を支えていかなければならないと思いました。
- ・私の子供は、知的な遅れは無いのですが軽い発達障害があります。社会人になり親が亡くなった後、一人で社会の中で生きていけるのかとても心配です。本人が相談出来るところや制度を知っていれば社会的孤立しないのではと思います、まず親も勉強しようと思います。このような学習会があれば、もっと参加していきたいです。
- ・相談に来た方の生活を丸ごと受け止め、きめ細かに専門知識を生かしながらゴールを目指すこの事業は、大変なエネルギーを要すると感じました。この事業に携わる人間のスキルが問われるので、人材育成にも力を入れなければならないと思いました。
- ・複合的困難・問題を抱えている場合、本人だけでは糸口も見つけれない。そんな時に「話してみようか。」と思える場所が身近にあることは必要！繋がる事が出来れば何とかかなりそう。でも繋がらない人をさてどうしたものか悩ましいところです。解決のためにも地域の力を育てることの大事さを強く感じさせていただきました。人は人の繋がりの中で生きていける、そんなシンプルなことが難しい時代ですが、新しい人との繋がり方のある社会・まちが出来ればよいと思いました。
- ・制度のはざまの人たち、複合課題をかかえた人たち、これらの人の支援を団体連携の元でチーム支援ができれば、それぞれの専門性の有効活用が出来る。具体的ものの構築が必要。目的別に変化を持たせられるそのことがよくわかりました。
- ・現在の社会状況の中で、意思に反して困難な立場に置かれている人たちに、人間らしい生活支援は特に重要だと思いました。
- ・今回のような学習会をしていただいて、今後自分たちはどのような方向で支援していくのか相談支援員としての心構えなど多くのことを学ばせて頂きました。相談者の方と歩調を合わせ、より良い生活が出来るように支援していきたいと思えます。
- ・日頃、あすくら宮古さんが行っている具体的な支援内容が分かりやすく知ることが出来てよかったです。来年からの自立支援制度は個人支援と地域資源の活用をコーディネートする私たちの力にかかっていると思いますので、今後また連携してお互いに活動してゆきたいと再認識でき、良かったです。
- ・あすらの業務内容がよくわかりました。スタッフの皆さんのご苦勞に合う収入があればよいですが…。
- ・高齢者、障害者、精神的、様々な人が悩み、苦しんでいる人のための施設がもっとたくさんあったら助かるのと思いました。たらい回しにされたとか、窓口で門前払いされたとか悪いイメージを持っています。“ひとりひとりが幸せになる支援”このような取り組みがもっと一般的になり悪





いイメージが無くなったらと思いました。心がほっこりしました。

- ・子どもの問題は、そこに至った家庭事情など環境面が気がかりです。事例でも、他の家族への支援が必要と思われました。連携をうまく取りたくても取れない状況に歯がゆい思いをされていること、とても大変だと分かりました。
- ・外からの貧困は見えにくく、地縁・血縁のない以上に、人への信頼関係が築けなくて好縁も作れない。そのうらに軽度知的もあります。人並みに学校は出たが、勉強はできない。しかし、「バカにされる」ことに敏感です。パツと見には、きれいな服を、携帯をもって困窮しているように見えないのです。そういう女の子が出会い系で少額のお金をもらっています。そういう子たちに家計のやりくりを教えるのが大変です。子ども時代からの学習支援が大事かと思いました。
- ・精神障害者支援をしているものです。福祉のどの分野でも問題の基盤にあるのが、生活困窮であることが多く、知っておいて損はないと参加しました。どの分野でのいろいろな分野の問題が複雑多様に絡み合っていることが多くなってきているので、もっと多(他)分野の人たちが集まって学習会等できればよいのかと思いました。
- ・とてもよかったです。日頃思っていること考えていることが、納得されて胸にストンと落ちた気持ちです。リラックスしてお話が聞けてよかったです。
- ・岩手でも里山資本主義を取り入れた暮らし方を十分できると実感しました。会社も社会も、とかく順番をつけたがり、「使える」「使えない」という言葉が現れるようになってきていると感じていた中で、湯浅さんが同様の事を指摘していた。横に広がりがあり、奥行きのある社会・人の「縁」を大切に世の中を気づいていくつながりを作っていきたいと思いました。生活困窮者支援制度を実のあるものにする、そういう人が繋がりあう空気感が大切で、それが制度を支える土台になると思います。
- ・エコな生活、考え方を、視点を変えるだけで地域を活性化できることを今後気を付けていきたいと思いました。仲間の大切さ、人との関わりはお金ではない。
- ・生活困窮者が自立していく取り組みは、お金の問題よりその人が生きづらさへの支援の大切さを知った。里山資本主義を活用しての考え方を活用できる方法を考えよう。眠っているものを増やす。

